

第1章 北薩地域将来ビジョンの策定趣旨

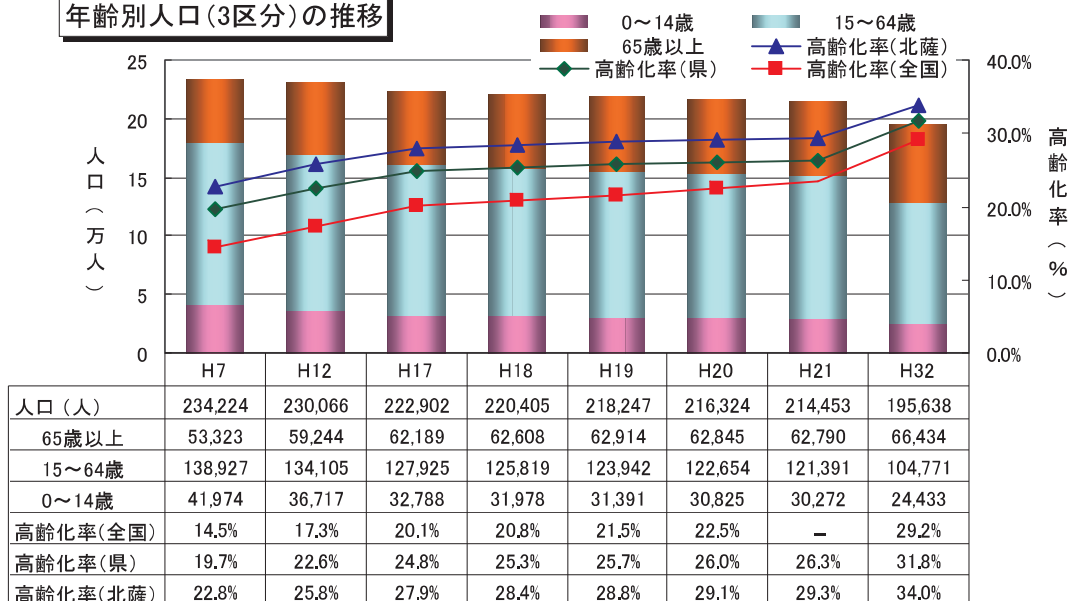
- ◇ 平成20年3月に策定された「かごしま将来ビジョン」を踏まえ、北薩地域^{※1}の特性に応じて課題や取組の方向性などを明らかにし、概ね10年程度の中長期的観点からの将来のあるべき姿を描くため、北薩地域振興局において北薩地域将来ビジョン」(以下「将来ビジョン」という。)を策定するものです。
- ◇ この将来ビジョンは、北薩地域の特性を生かした独自の挑戦課題を掲げることにより、安心・安全な地域社会の構築やその発展のために、地域一体となって取り組んでいく基本的な方向性を示すものです。

第2章 時代潮流と北薩地域の主な特性

(1) 時代潮流

- ◇ 我が国は、国、地方とも大変厳しい財政状況^{※2}にあり、グローバル化の急速な進展や本格的な人口減少、高齢化の進行など、社会のあらゆる面で大きな転換期を迎えています。また、最近では世界的な経済危機や新型インフルエンザの感染拡大など、その影響は、私たちが日々生活する身近なところまで及んでいます。
- ◇ また、地球温暖化による環境の変化が危惧されるなど、次代を担う人たちが住む地球環境のことを考えながら、将来に向けて環境への負荷の少ない持続可能な社会づくりが、大きな課題となってきています。
- ◇ 北薩地域は、現在、人口214,453人(平成21年10月1日現在推計値)であり、平成2年の人口235,072人(10月1日国勢調査)と比較し約9%の減少がみられます。また、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口においては、さらに人口が減少し、65歳以上の人口割合は、平成21年10月現在の29.3%から、10年後(平成32年)には、34%になると推計されており、人口減少と少子化とともに高齢化が進んでいくものとされています。

年齢別人口(3区分)の推移



資料: 国勢調査及び毎月推計人口(各年10月1日)
国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口

(2) 北薩地域の主な特性

ア 豊かな自然環境

- ・ 当地域は、本県の北西部に位置しており、東シナ海に面した温暖な気候風土にあり、北は熊本県に隣接しています。域内には、矢筈山系、八重山山系、紫尾山系があり、その間に川内川流域部と出水平野部が広がっています。また、甌島や長島・獅子島などの島嶼もあり、豊富な水資源や広大な農地、豊かな森林資源、八代海・東シナ海の海洋資源など多様で豊かな自然環境に恵まれています。

この豊かな自然環境は、農林水産業の優れた生産基盤をなしており、稲作、野菜、果樹、養鶏や牛などの畜産、タケノコ生産、ブリ養殖などが盛んであり、豊かな食材や食文化をはぐくんでいます。

また、多様な自然環境や新鮮な食材などを利用したグリーン・ツーリズムやブルー・ツーリズムなどの動きが見られます。

イ 歴史的史跡や伝統芸能等

当地域には、薩摩国分寺跡や出水市出水麓、薩摩川内市入来麓の武家屋敷群、中世からの山城跡など多くの歴史的史跡があり、また、甌島のトシドンや川内大綱引きなどの伝統行事、東郷文弥節人形浄瑠璃などの伝統芸能や郷土芸能、出水兵児修養掟などの郷土訓が傳承されています。

ウ 本県の北の玄関口、県外との交流

当地域は、熊本県に隣接しており、国道3号、肥薩おれんじ鉄道、新幹線を利用して他県との人や物の交流があり、また、長島からフェリーを利用して、熊本県天草を経由して長崎県へ通じるルートもあります。

また、隣県熊本県とは北薩摩振興推進協議会による薩摩街道を利用したウォークや食をテーマとしたフェアなどの県際交流事業も始まっているほか、出水市においては、ツルを縁にして、北海道釧路市や山口県周南市との交流が進められています。

さらに、重要港湾である川内港では新鑿真号による中国との交流などもあり、当地域は、本県の北の玄関口ともいえます。

エ エネルギー供給基地と各種産業の立地

当地域には、薩摩川内市に原子力発電所と火力発電所があり、県内外に電力を供給しています。また、さつま町には鶴田ダムを利用した水力発電所もあります。長島町と甌島には風力発電所があり、中でも長島町は風力発電としては日本最大規模になっています。

このほか、広大な農地や森林、豊かな海洋からの恵みを活用した食品加工業が盛んであり、電子関連企業も数多く立地しています。

(3) その他

当地域では、公共関与による産業廃棄物管理型最終処分場の整備に向けた取組を進めています。

また、このほか水俣病未認定患者の救済問題や川内原子力発電所3号機増



設計画があります。

第3章 北薩地域が目指す将来の姿

当地域には、前章でも記述したように素晴らしい自然や歴史・文化があり、一方で、先端技術産業や地域資源を生かした様々な産業が展開しており、地域の発展を支えています。こうした地域特性を生かしながら、将来に向けて、安心・安全で暮らしやすい社会環境を形成することが重要と考えます。

また、九州新幹線全線開業に向けた取組や高規格幹線道路の整備が進められるなど、本県の北の玄関口として広域交通ネットワークの形成が着々と進められ、九州西岸軸の中核となる島原・天草・長島架橋構想（三県架橋構想（以下、略））など、地域が発展する様々な可能性があることから、行政・民間が一体となって将来に向かって果敢に挑戦することにより更なる発展が期待されます。

将来ビジョンの策定にあたっては、「かごしま将来ビジョン」で「鹿児島が目指す将来の姿」として掲げた「安心・安全」、「活力・快適」、「共生・有徳」の3つの視点を基本に据え、北薩地域の未来に向かって、活力ある魅力あふれる北薩地域の構築を目指します。

1 いつでもどこでも誰もが生涯を通じて安心して暮らせる安全な社会 (安心・安全)

人口減少や少子高齢化など時代の変化の中にあって、年金、医療、福祉等の社会保障制度をはじめ、現行の社会経済システムの維持可能性に対する疑問や将来への不安が広がっています。

特に、当地域は、県や全国の平均に比べ高齢化が進行していますが、一方では、出生率が県平均や全国よりも高い状況にあります。こうした中、どのような地域に住んでいても十分な医療が受けられる環境や子どもたちを安心して育てられる環境などが望まれているところです。また、甑島をはじめとする離島や過疎地域も多くあることに加え、平成18年には豪雨災害に見舞われました。

このようなことから地域の誰もが、住み慣れた地域や家庭において、生涯にわたり安全に、また安心感をもって、心身ともに健やかな生活を送ることができる社会を構築することが特に強く求められています。

また、男女共同参画の推進により、その根底となる最も基本的な「男女の人権の尊重」の理念が地域住民一人ひとりの意識に深く浸透し、あらゆる場で実践される環境が形成されるよう、地域一体となって取り組むことが求められています。

このため、地域における人と人との緊密なつながりの中で、地域住民と行政が一体となって取り組むことによって「いつでもどこでも誰もが生涯を通じて安心して暮らせる安全な社会」を目指します。

2 暮らしやすい生活環境と足腰の強い産業基盤が築かれた快適で活力あふれる社会 (活力・快適)

過疎化や少子高齢化の進行、グローバル化の進展など、社会や経済を取り巻く環境が大きく変化し、様々な改革が進められています。平成20年のリーマンショックに端を発した経済不況の影響が世界的規模で広がり、当地域においても大手企業が相次いで生産工場を撤退するなど、経済情勢の厳しい現状があります。こうした状況から我が国の安定した経済成長と併せて、地域の再生・活性化を図っていくことが必要です。

また、住民生活の安定や利便性の向上を図っていく観点から、どのような地域に住んでいても、情報化の進展や交通ネットワークの整備等による恩恵を享受しながら、快適に住み続けることができる生活環境が求められています。

特に、当地域においては、地域産業の発展や住民の生活を支える広域交通ネットワークの形成を図るため、平成23年3月（予定）には九州新幹線鹿児島ルートが全線開業するとともに、南九州西回り自動車道や北薩横断道路、川内港などの整備が進められています。また、島や温泉地等の観光資源があり、基幹産業である農林水産業もさらに発展が期待されるとともに、社会経済等の環境の変化にも対応した産業基盤の整備が重要となっており、地域が発展する様々な可能性があることから、行政・民間が一体となって将来に向かって果敢に挑戦することにより更なる発展を図っていくことが求められています。

さらに、観光や体験型交流、スポーツ、芸術など様々な分野を通じて県際交流が進められており、共通の地域課題の解決に向けての広域的連携を図り、県域を越えて協力し、取り組んで行くことが重要です。

このため、当地域の持つ多様な地域資源を最大限に活用しながら、新時代に対応した戦略的な産業振興や魅力ある観光地づくりなどを進めるとともに、景観に配慮した住民主体のまちづくりや交通ネットワークなどの整備を着実に推進していくことによって、「暮らしやすい生活環境と足腰の強い産業基盤が築かれた快適で活力あふれる社会」を目指します。

3 すべての人がともに築き支え合う優しく温もりのある社会

(共生・有徳)

少子高齢化、人々の価値観やライフスタイルの多様化に伴うニーズの複雑・多様化、さらには国・地方を通じた厳しい行財政運営の状況から、これまでの行政だけで公共サービスを提供していくことは、質的にも量的にも困難な状況にあります。

こうした中、安全で快適な地域づくりにあたっては、行政だけではなく自治会などの地域コミュニティやボランティア、NPO、企業といった多様な主体が、相互に連携・協力して地域の課題解決に取り組む「共生・協働の地域社会づくり」を引き続き推進していくことが求められています。

本県の県民性として、人間のよさや人格の高潔さなどの品格が評価され、また、当地域内でも、「出水兵児修養掟」や「甕島のトシドン」などが伝えられてきているように、教育や文化を大切に作る風土があります。

このため、県民の織りなす地域社会において、すべての人がお互いを思いやり、支え合う、優しく温もりのある地域社会（有徳の地域社会）づくりを目指します。

このように、地域が持つ伝統や風土を十分に生かしながら、自助・互助・公助の仕組みの下、地域の多様な主体の知恵と力を集結することによって、将来を担う子どもたちが健やかにはぐくまれるとともに、あらゆる世代の人々が地域社会に貢献し、自らの地域に誇りを持って生きていける「すべての人がともに築き支え合う優しく温もりのある社会」を目指します。

1 北薩地域：北薩地域振興局管内（阿久根市、出水市、薩摩川内市、さつま町及び長島町）。

2 グローバル化：世界規模で広がっていくこと。

3 高齢化：総人口に占める高齢者人口（65歳以上）の割合が相対的に高いこと。

4 少子化：出生率の低下により子どもの数が少なくなること。